



地域経済動向調査 9月

黒滝村商工会
下市町商工会
天川村商工会

目次

1. 奈良県のCI、一致指数	3
2. 個人消費：百貨店・スーパー販売額・乗用車販売台数	4
3. 生産：住宅着工	5
3. 生産：生産	6
3. 生産：設備投資	7
4. 雇用：雇用情勢	8
5. 景気：倒産	9
6. 9月の特集：旅行アンケート	10－16

1. 奈良県のCI、一致指数（知事公室統計課）

		当月	3ヶ月後方移動平均	7ヶ月後方移動平均
先行指数	指数	92.0	90.1	97.4
	前月差(ポイント)	0.3	1.5	▲ 2.7
	動向	2ヶ月連続+	12ヶ月ぶり+	13ヶ月連続-
一致指数	指数	137.1	138.7	136.7
	前月差(ポイント)	▲ 1.4	0.8	0.2
	動向	2ヶ月連続-	3ヶ月連続+	10ヶ月連続+
遅行指数	指数	99.9	100.6	99.1
	前月差(ポイント)	▲ 1.8	0.1	0.6
	動向	8ヶ月ぶり-	7ヶ月連続+	6ヶ月連続+

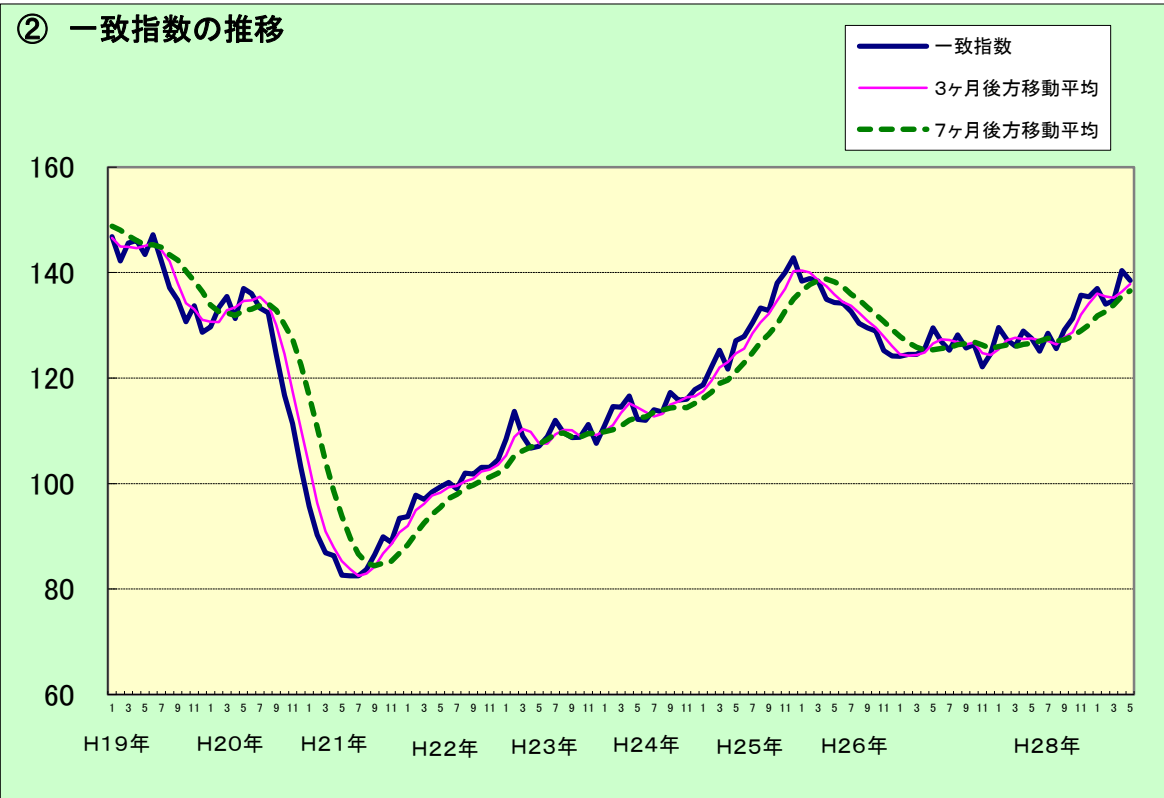
①奈良県の6月の一致指数は 137.1 で、前月を1.4 ポイント下回り、2ヶ月連続でマイナスとなったが、3ヵ月後方移動平均では12ヵ月ぶりにプラスになっており、悪いとは言えない。

先行指数は92.0で2ヵ月連続でプラスとなっている。

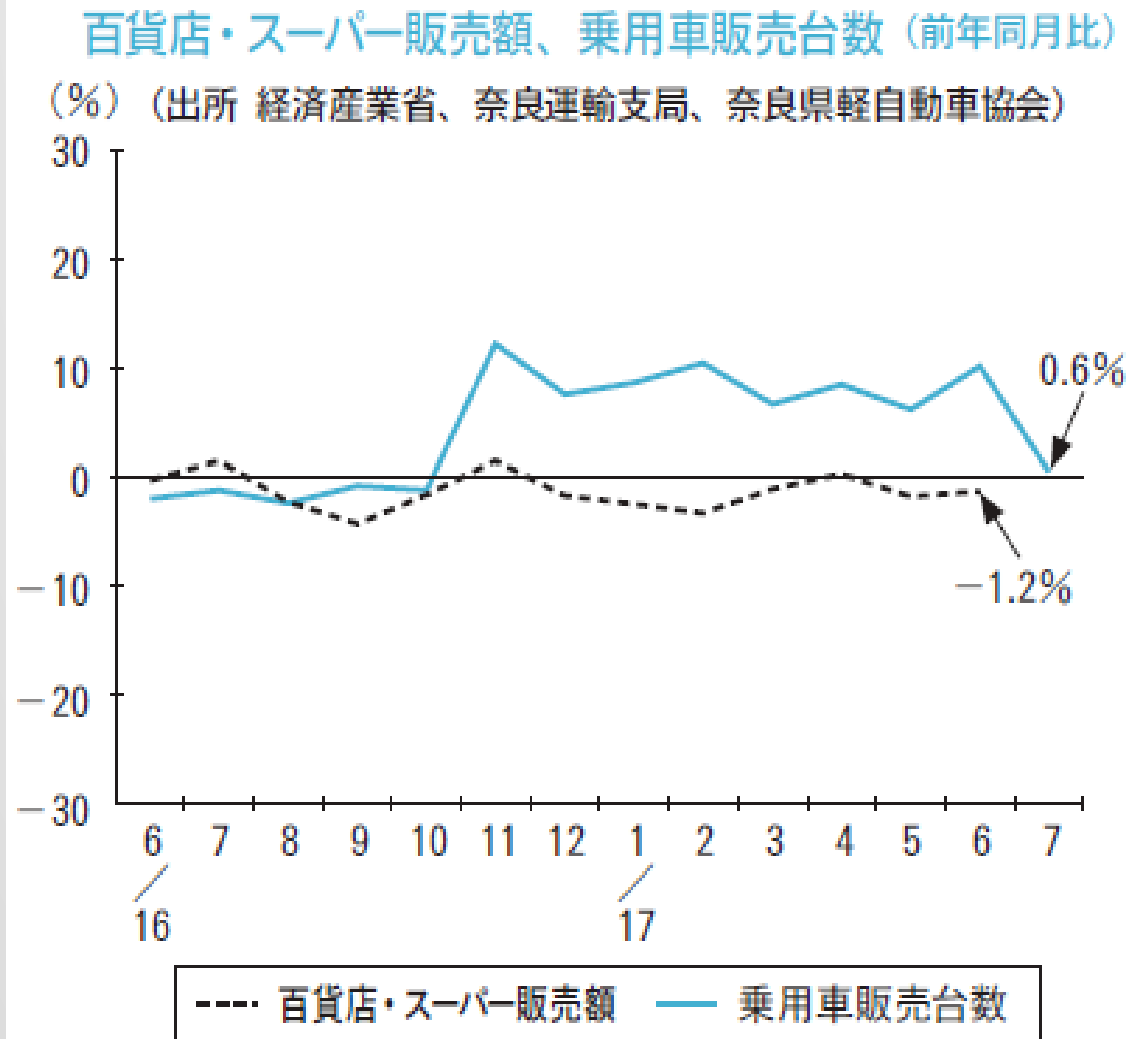
一致指数のマイナスの主な要因は有効求人倍率と有効求人充足率がマイナスになったためである。

先行指数のプラスの主な要因は、所定外労働時間数と新設住宅着工指数がプラスに転じたからと言える。

現状、奈良県の景気動向指数は「改善」していると言える。



2. 個人消費：百貨店・スーパー販売額・乗用車販売台数（南都経済研究所、経済産業省等）

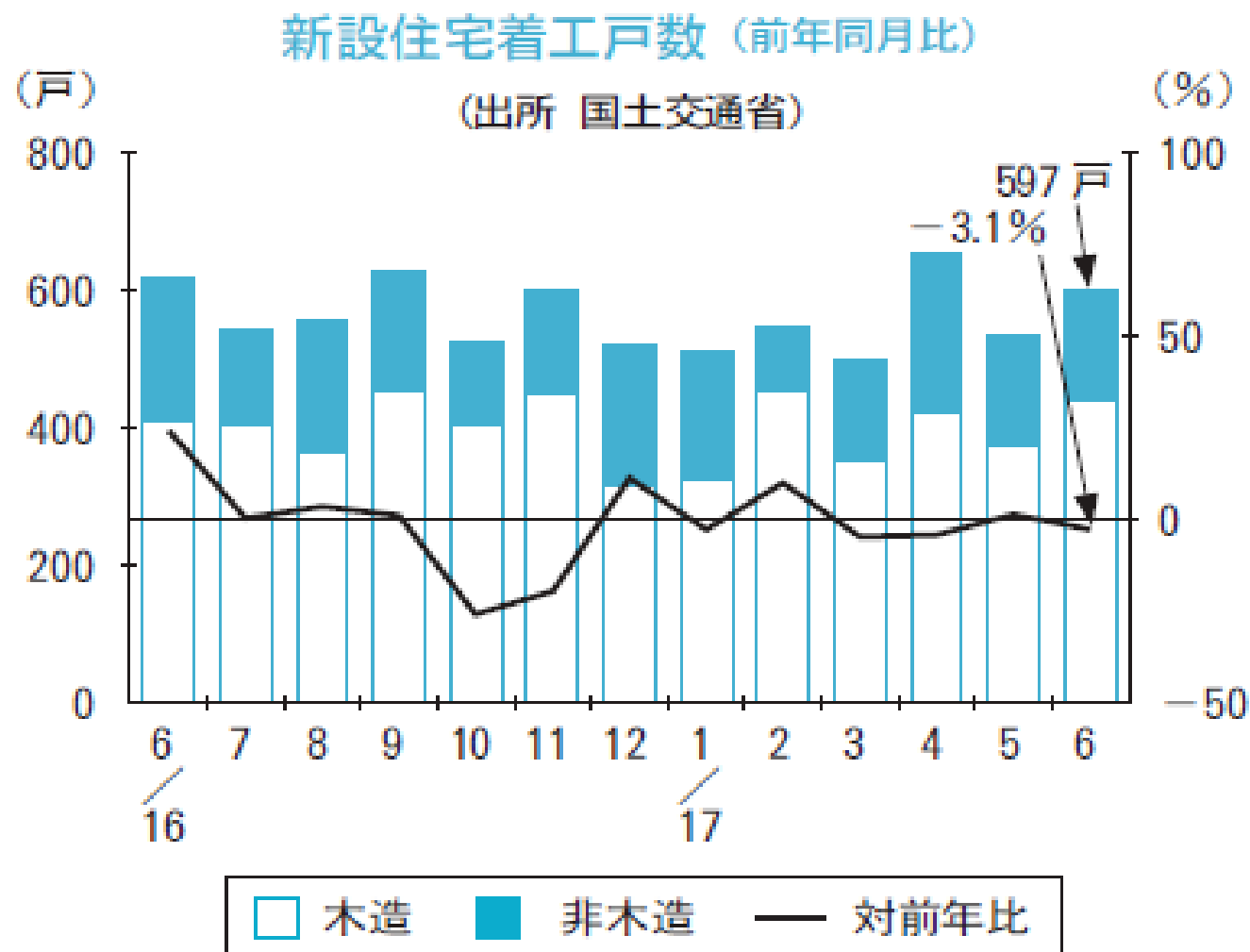


①6月の百貨店・スーパー販売額は、1.2%減の182億円で、2カ月連続の減少。既存店ベースでは1.7%減で7カ月連続でマイナスとなっており、良いとは言えない。

②内容的には衣料品は▲1.3%で、飲食料品が▲0.5%減であり、引き続き衣服に対する出費を控えていると同時に、飲食料品も減少に転じた。

③7月の乗用車販売台数は、0.6%増の3,593台で9カ月連続の増加となっているが、増加幅は大幅に縮小した。

3. 生産：住宅着工 (南都経済研究所)



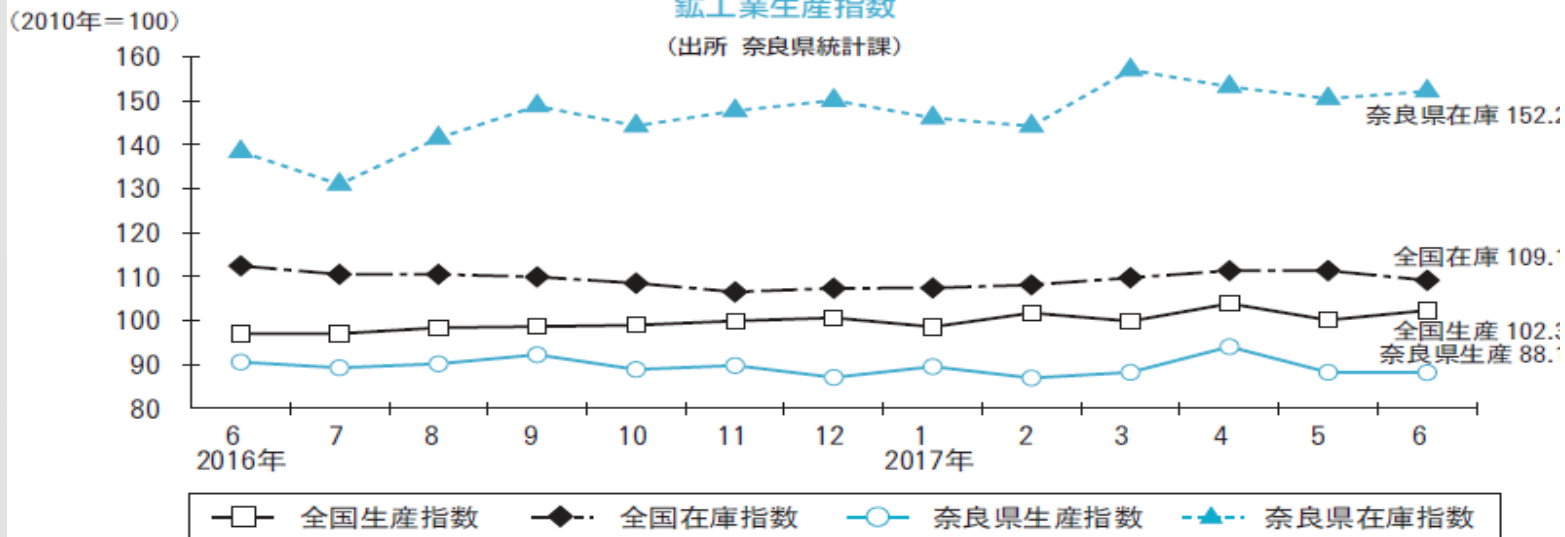
今月は、旅行を特集することから住宅着工についての統計資料を示す。

6月の新設住宅着工数は、597戸と3.1%減少した。

具体的には持家は8.2%減の247戸、貸家は14.2%減の163戸、分譲住宅は11.5%減の139戸となっている。

グラフからここ1年間の着工戸数は、毎月600戸前後で落ち着いていることがわかる。

3. 生産：生産（南都経済研究所、奈良県知事公室統計課）



奈良県鉱工業生産指数、在庫指数の業種別の動き（6月）

(注) 生産系列の総合指数（季節調整済指数）で上昇・低下に寄与した業種の順番で掲載している。前月比、前年同月比は（％）

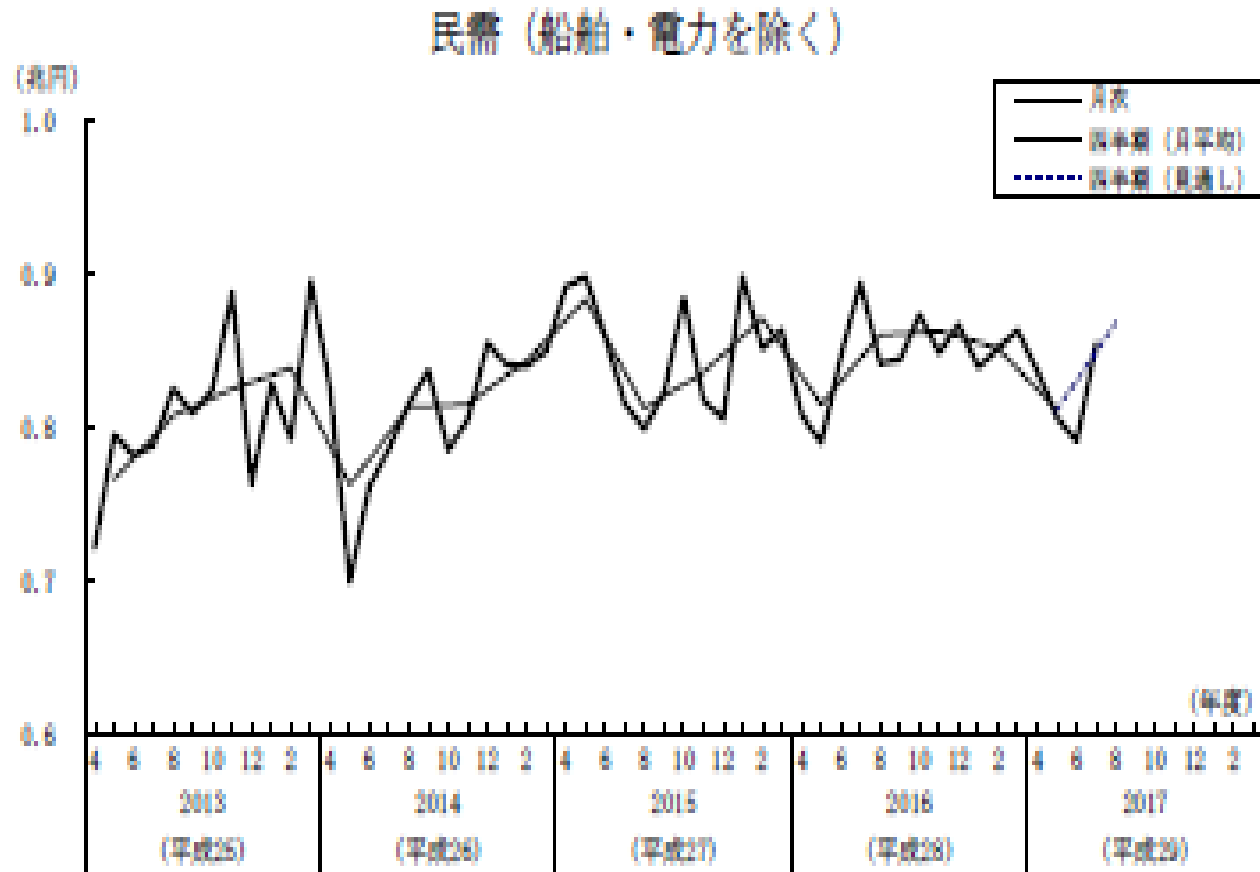
業 種 名		生 産			在 庫		
		季節調整済指数		原 指 数	季節調整済指数		原 指 数
		前 月 比	指 数	前年同月比	前 月 比	指 数	前年同月比
上	輸 送 機 械	6.0	105.2	6.7	—	—	—
	印 刷 業	4.1	171.3	14.8	—	—	—
	プラスチック製品	2.8	91.5	6.3	14.9	97.8	0.7
	パルプ・紙・紙加工品	4.6	128.3	7.5	▲7.0	197.5	13.6
	非 鉄 金 属	10.6	84.8	2.3	0.4	91.3	4.7
	木 材 ・ 木 製 品	6.3	90.9	▲2.7	0.4	122.5	6.6
	鉄 鋼 業	6.8	97.7	14.3	12.9	148.4	5.0
昇	窯業・土石製品	3.7	104.0	19.0	▲0.3	39.3	▲16.5
	食 料 品 ・ た ば こ	0.3	94.6	1.0	▲4.0	118.9	▲0.7
低	一 般 機 械	▲6.1	100.8	0.5	0.5	226.3	12.2
	そ の 他 製 品	▲17.1	103.7	▲2.1	x	x	x
	化 学 工 業	▲3.0	120.0	▲8.2	14.6	109.3	▲26.2
	金 属 製 品	▲3.0	105.1	▲4.2	▲18.4	75.4	▲11.1
	ゴ ム 製 品	▲6.7	72.4	3.2	▲1.7	105.7	24.4
	織 維 工 業	▲0.5	75.8	▲5.1	1.0	107.2	1.0
	電 気 機 械	▲1.7	5.7	▲83.4	52.5	6.1	▲70.9
下	皮 革 製 品	▲2.9	54.1	20.3	▲1.7	104.2	5.5

① 6月の鉱工業生産指数は、88.1と前月比0.1%減で2カ月連続で低下した。なお、2010年を100としている。

② 在庫指数も152.2で前月比1.1%上昇し、3カ月振りの上昇となった。在庫は減少したほうが、売れていることを示す。

③ 業種別に見てみると、木材・木製品は前月比6.3%増加している。その他上向いている業種は、非鉄金属、鉄鋼業等9業種あり、上昇している業種が低下している業種より多くなっている。

3. 生産：設備投資（内閣府）



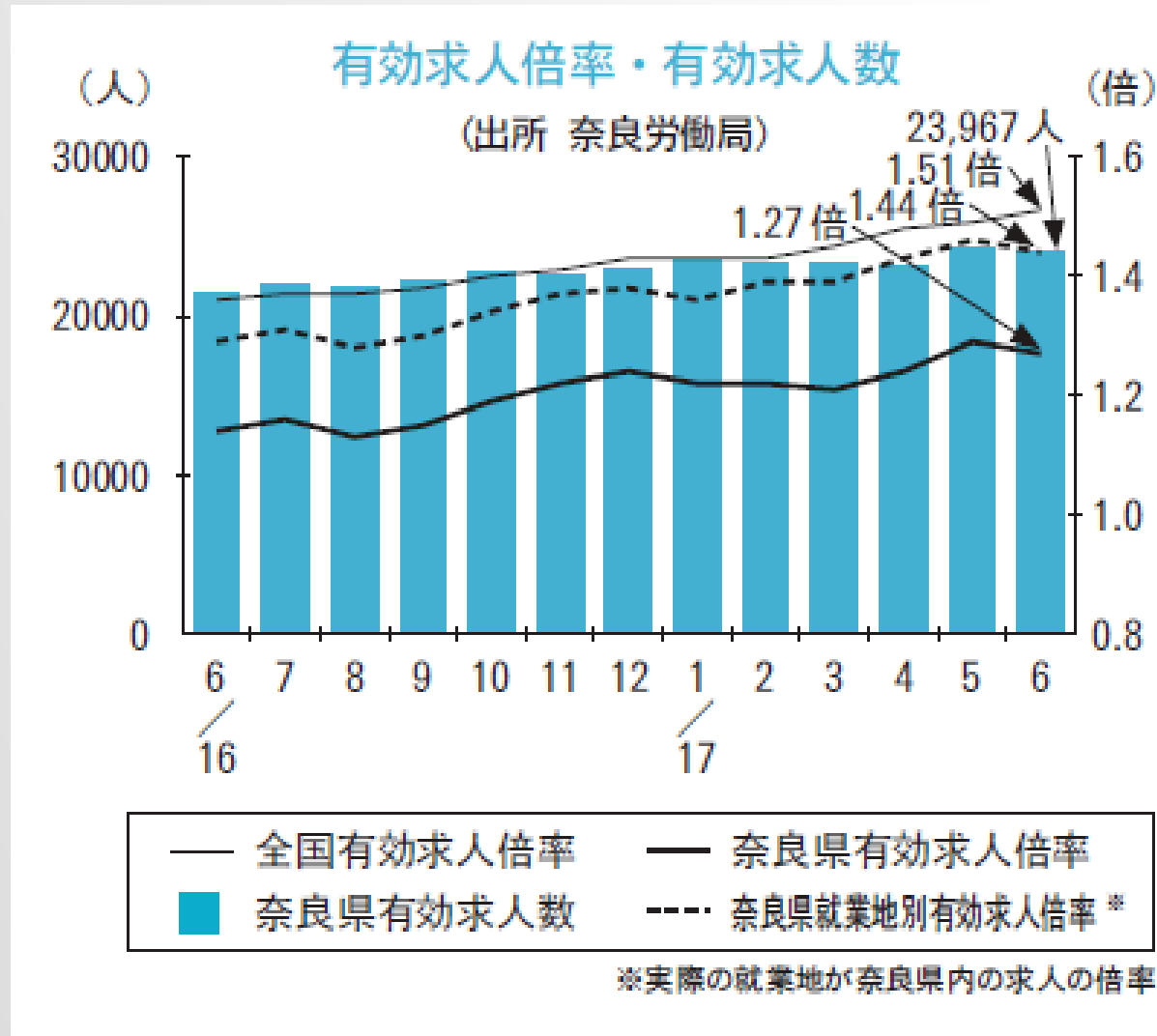
(備考) 四半期（見通し）の2017年7～9月は「見通し調査（2017年6月末時点）」の季節調整値を3で割った数値。

①全国の7月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は対前年比1.1%増である。

②具体的には、製造業が2.9%増で、非製造業が4.8%増となっている。

③今後の四半期の見通しは増加傾向にあり、設備投資は、改善していると言える。

4. 雇用：雇用情勢（南都経済研究所、奈良労働局）



① 6月の新規求人数は8,224人で、前年同月比4.5%増と、3カ月連続で増加している。

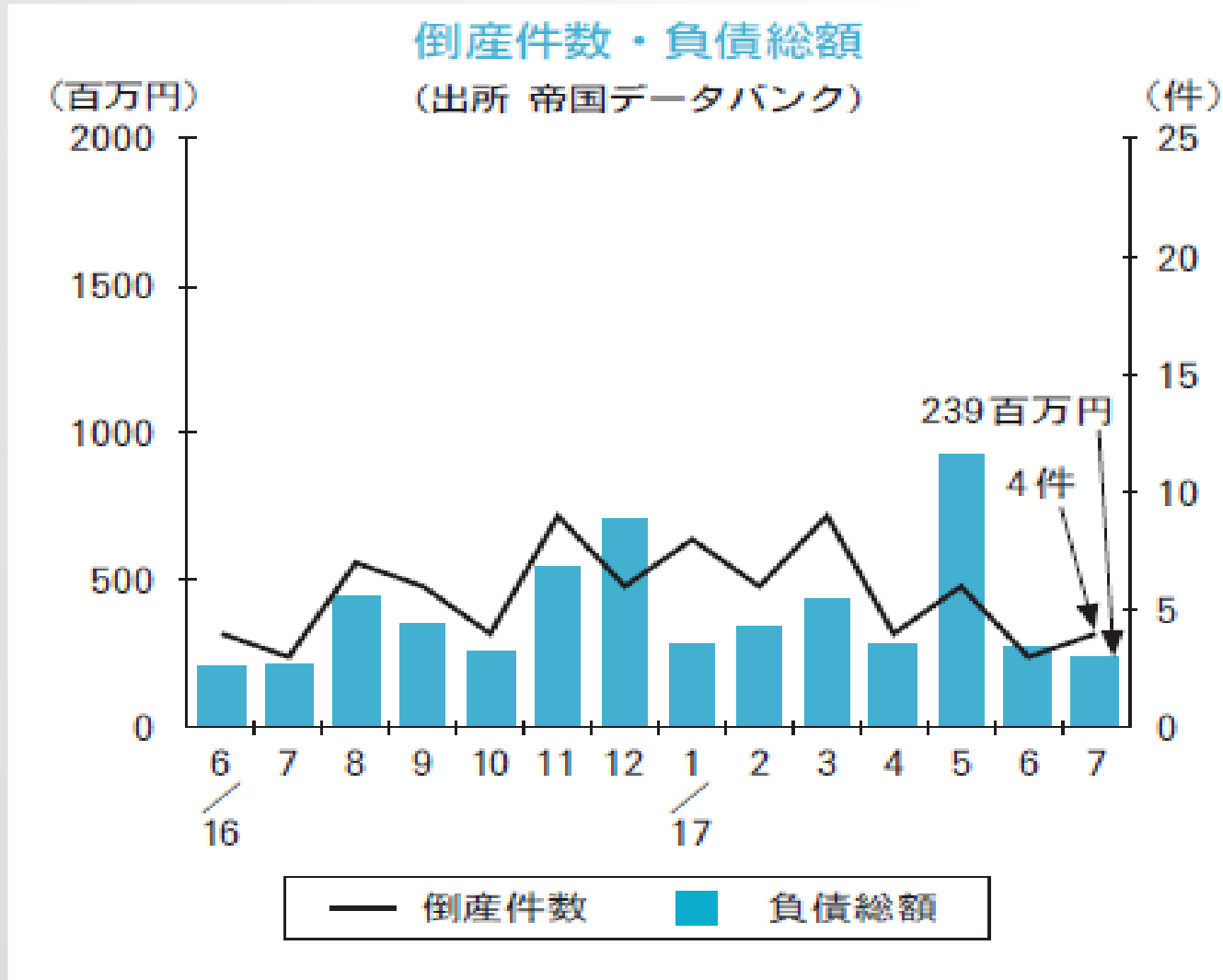
② 有効求人数も23,967人で前年同月比8.6%増と、26カ月連続で増加している。

③ 一方で、新規求職者数は4,484人で前年同月比3.8%減と2カ月連続で減少している。

④ また、有効求職者数は18,897人で前年同月比2.8%減で、18カ月連続で減少している。

引き続き、採用環境は厳しく、採用は難しくなっている。

5. 景気：倒産（南都経済研究所、帝国データバンク）



①7月の倒産件数は、4件で18カ月連続で一桁台で推移している。

②負債総額は239百万円となっている。倒産原因は、全ての倒産が、競争激化や消費動向の停滞などを背景とした販売不振である。

③業種別では建設業、卸売業、小売業、及び、製造業各1件であり、全てが自己破産であった。

6. 9月の特集：旅行アンケート（リクルートライフスタイル；じゃらん宿泊旅行調査2017）

◇延べ宿泊旅行者数の推計方法

※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っている

	H28年10月1日 現在人口推計	調査結果			推計値		
	人口	宿泊旅行 実施率	宿泊旅行 実施者の 年間平均 旅行回数	宿泊旅行 実施者の 1回の旅行あたり 平均宿泊数	実 宿泊旅行者数	延べ 宿泊旅行者数	延べ 宿泊数
	(万人) <A>	(%) 	(回) <C>	(泊) <D>	(万人) A*B	(万人回) A*B*C	(万人泊) A*B*C*D
(2016年度)全国20～79歳男女	9,475	54.8	2.77	1.76	5,188	14,358	25,308
前年度との差→		▲ 1.6	▲ 0.09	前年度との差→	▲ 170	▲ 955	▲ 1,595
		前年度比→			▲ 3.2%	▲ 6.2%	▲ 5.9%
(2015年度)全国20～79歳男女	9,498	56.4	2.86	1.75	5,358	15,313	26,903
(2014年度)全国20～79歳男女	9,520	56.9	2.79	1.68	5,420	15,110	25,397
(2013年度)全国20～79歳男女	9,557	57.5	2.84	1.60	5,491	15,599	24,972
(2012年度)全国20～79歳男女	9,598	55.8	2.71	1.61	5,354	14,505	23,445
(2011年度)全国20～79歳男女	9,646	57.6	2.64	1.63	5,561	14,686	23,987
(2010年度)全国20～79歳男女	9,672	56.7	2.73	1.64	5,489	15,020	24,686
(2009年度)全国20～79歳男女	9,653	60.3	2.79	1.65	5,819	16,239	26,778
(2008年度)全国20～79歳男女	9,688	63.1	2.84	1.68	6,110	17,355	29,235
(2007年度)全国20～79歳男女	9,707	63.8	2.83	1.69	6,196	17,514	29,604
(2006年度)全国20～79歳男女	9,686	64.7	2.77	1.69	6,269	17,366	29,325
(2005年度)全国20～79歳男女	9,722	66.1	2.78	1.72	6,424	17,875	30,856
(2004年度)全国20～79歳男女	9,707	65.4	2.73	1.68	6,350	17,343	29,024

(1) 延宿泊旅行者数

全国の2016年度の宿泊旅行実施率は54.8%で2004年度の調査開始以来最低の数字。

旅行実施者の年間旅行平均回数は2.77回で、1回の宿泊数は平均1.76泊となっている。

ここから、単に毎年同じことをやっているだけでは、宿泊人数は減っていくということが言える。

注：宿泊旅行とは、国内での宿泊を伴う旅行で出張・帰省・就学旅行を除いたもの。宿泊旅行実施率は、2017年に全国から7万件アンケートを回収して日本国内に住む方の2016年度に宿泊旅行をした割合を算出したもの。

6. 旅行アンケート（リクルートライフスタイル；じゃらん宿泊旅行調査2017）

◇性・年代別

宿泊旅行

実施率の推移

	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
全国20～79歳男女	65.4	66.1	64.7	63.8	63.1	60.3	56.7	57.6	55.8	57.5	56.9	56.4	54.8
20～34歳 / 男性	62.5	61.4	61.0	61.8	60.6	57.0	53.2	57.2	52.8	51.3	54.1	53.8	51.7
20～34歳 / 女性	68.0	66.7	67.1	66.3	66.8	65.0	61.3	64.0	62.3	64.0	64.3	61.9	60.3
35～49歳 / 男性	61.9	62.2	60.4	60.1	59.6	56.9	53.6	53.0	51.8	53.1	53.7	53.4	52.0
35～49歳 / 女性	62.6	64.8	61.5	58.9	58.7	57.8	53.6	55.9	53.7	56.3	55.3	54.8	53.8
50～79歳 / 男性	63.8	67.4	64.8	64.7	63.2	59.9	55.1	55.9	54.4	57.6	56.2	55.6	55.0
50～79歳 / 女性	70.3	69.7	69.2	67.3	66.5	63.1	61.2	60.2	59.0	60.3	58.5	58.6	55.6

(万人回)

◇性・年代別

延べ宿泊

旅行者数の

推移

	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
全国20～79歳男女	17,343	17,875	17,366	17,514	17,355	16,239	15,020	14,686	14,505	15,599	15,110	15,312	14,358
20～34歳 / 男性	2,219	2,201	2,036	2,075	1,975	1,879	1,612	1,608	1,450	1,537	1,553	1,545	1,434
20～34歳 / 女性	2,319	2,284	2,214	2,102	2,074	1,876	1,802	1,705	1,648	1,779	1,691	1,627	1,543
35～49歳 / 男性	2,045	2,175	1,833	2,106	2,084	2,069	1,888	1,902	1,864	2,038	2,028	2,128	1,984
35～49歳 / 女性	1,963	2,017	1,847	1,900	1,856	1,841	1,777	1,711	1,669	1,851	1,776	1,823	1,771
50～79歳 / 男性	3,959	4,472	4,424	4,310	4,414	3,946	3,578	3,601	3,543	3,941	3,795	3,889	3,772
50～79歳 / 女性	4,837	4,726	5,013	5,022	4,952	4,628	4,362	4,158	4,331	4,453	4,266	4,301	3,855

Press Release

3



（2）性・年代別実施率、旅行者数

最も延べ宿泊旅行者数が多いのは50～79歳の女性で3,855万人であり、次が50～79歳の男性3,772万人である。

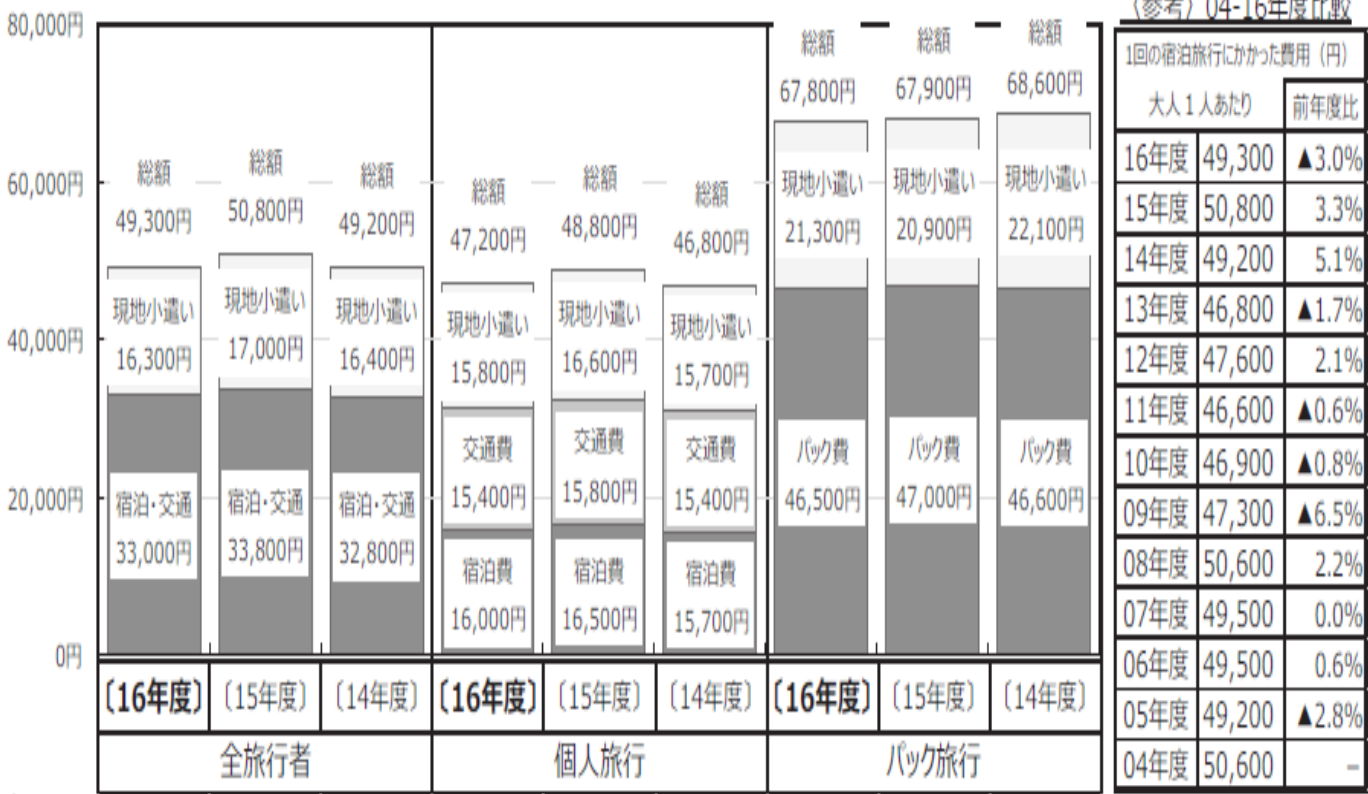
実施率自体は、20～34歳女性で60.3%であるが人数言えば1,543万人で上記の3分の1に過ぎない。

ここから、50歳を超えた方々が好む食事、イベントを考える必要があると言える。

6.9月の特集：旅行アンケート（リクルートライフスタイル；じゃらん宿泊旅行調査2017）

◇1回の宿泊旅行にかかった費用（大人1人あたり）

※金額については、百の位までの四捨五入で示しているため、合計が合わない場合があります



（3）宿泊旅行の費用総額

16年度の1回当たりの費用総額は49,300円で、前年度を下回った。

現地の小遣いは16,300円であり、ここから如何にお土産や食事等に使ってもらうかが、重要となる。

6. 旅行アンケート（リクルートライフスタイル；じゃらん宿泊旅行調査2017）

		一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	家族旅行 小学生以下の子連れ	家族旅行 中学生以上の子連れ	親連れ家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	職場やサークルなど 団体旅行	その他		
単位 (%)													
〔16年度〕	全体	17.2	7.0		25.5		11.8	4.3	8.5	8.3	13.1	3.2	1.2
〔15年度〕	全体	17.5	7.0		25.3		11.2	4.2	8.5	8.4	13.2	3.3	1.4
〔14年度〕	全体	15.9	7.3		24.5		11.9	4.2	8.2	8.9	13.9	3.8	1.4
〔13年度〕	全体	15.4	7.0		24.8		11.7	4.3	8.4	9.1	13.8	3.8	1.7
〔12年度〕	全体	14.5	7.2		24.1		12.7	4.3	7.9	9.2	13.8	4.4	1.8
〔11年度〕	全体	14.1	7.4		24.5		12.6	4.0	8.0	8.8	14.3	4.5	1.9
〔10年度〕	全体	13.1	7.2		24.4		12.8	3.9	7.8	9.0	15.3	4.7	1.8
〔09年度〕	全体	12.9	7.4		24.3		12.4	3.7	7.7	9.3	15.2	5.2	2.0
〔08年度〕	全体	12.5	7.4		24.2		12.0	3.6	7.6	9.3	15.3	5.8	2.2
〔07年度〕	全体	12.0	7.3		23.8		12.4	3.7	7.2	9.3	15.9	6.1	2.2
〔06年度〕	全体	11.2	7.7		24.0		12.8	3.5	7.1	9.5	16.4	5.7	2.2
〔05年度〕	全体	10.8	7.7		23.6		13.5	3.7	7.0	9.5	15.6	6.4	2.1
〔04年度〕	全体	10.5	8.1		22.4		14.6	4.3	7.3	8.6	15.3	5.8	3.0

（４）同行者

最も多いのが夫婦2人の旅行で25.5%で増加傾向にある。次いで、一人旅が17.2%と多い。

イベント、お土産を考える際は、これらの旅行者をターゲットに考える必要がある。

なお、一人旅の構成比で一番多いのは、20～34歳の男性で29.1%、次いで、35～49歳の男性で24.2%である。また、50～79歳の男性も20.1%と多い。

これらの客層が好むものを考える必要がある。

6. 旅行アンケート（リクルートライフスタイル；じゃらん宿泊旅行調査2017）

【参考】《選んだ理由別 都道府県ランキング》

- 特定のイベントやアクティビティに興味・・・1位：千葉県／沖縄県
- テレビや雑誌などで話題・・・1位：石川県
- 特定の観光地・スポットに興味・・・1位：奈良県
- 食・特産品に興味・・・1位：高知県
- 良い宿・ホテル・・・1位：大分県
- 魅力的な温泉・・・1位：大分県

「テレビや雑誌などで話題」は前年度1位の石川県が引き続きトップに。

「食・特産品」においては、高知県が前年度5位から1位に4ランクアップした。

（5）選んだ理由別ランキング

奈良県は「特定の観光地・スポットの興味」で1位になっている。一方で、右記の他の選んだ理由のベスト10には入っていない。

食・特産品に興味でベスト10に入っていないのは課題と言える。

なお、特定の観光地とは奈良公園周辺と考えられる。

6. 旅行アンケート（リクルートライフスタイル；じゃらん宿泊旅行調査2017）

■ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった

－ 1位：高知県、2位：石川県、3位：北海道

昨年7位の高知県が6ランクアップで1位に返り咲き。2位の石川県は数値を上げるも高知県に及ばず。

高知県は2014年度は1位、2015年度は7位と順位を下げたものの、今年また1位を獲得した。「選んだ理由別」の「そこならではの食・特産品に興味があったから」ランキングでも1位を獲得しており、食を求めて訪れる旅行者の期待に応えた形となった。2位の石川県は前年度から2.1pt伸ばすも、1位の高知県には及ばなかった。5位の福井県、6位の山形県、9位の大分県が新たにベスト10入り。

■ 魅力のある特産品や土産物が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：石川県、3位：京都府

沖縄県は12年連続1位。2位の石川県は前年から3.6pt上昇、2ランクアップ。

1位沖縄県では「ちんすこう」「泡盛」「シーサー」などが変わらぬ人気。2位の石川県は前年から3.6pt伸ばし、2ランクアップ。「海産物」「金箔」や「和菓子」、「九谷焼」などのコメントが見られる。6位の長崎県、8位の広島県、9位の愛媛県、10位の山形県が新たにランクイン。広島県はもみじ饅頭や牡蠣などに加えて、レモンやカーブグッズなどのコメントも。

■ 魅力的な宿泊施設が多かった

－ 1位：大分県、2位：沖縄県、3位：岐阜県

1位の大分県は2年連続。由布院温泉や別府温泉などの有名宿泊施設に関するコメントが多い。2位の沖縄県は民宿も人気。

岐阜県が5ランクアップの3位に。下呂や奥飛騨などの温泉地への評価が高い。6位に石川県、10位に栃木県が新たにランクイン。石川県は温泉宿以外にも、金沢近辺のホテルへの評価も高い。栃木県は温泉宿、ファミリー向けホテル、ペンションなど多くの形態の宿がコメントで挙げられた。

(単位：%)

2016年度 順位	
全体平均	59.0
1位 高知県	80.8
2位 石川県	78.1
3位 北海道	75.9
4位 沖縄県	73.7
5位 福井県	72.7
6位 山形県	71.4
7位 富山県	71.0
8位 広島県	70.7
9位 大分県	69.9
10位 香川県	69.4

2015年度 順位	
全体平均	59.0
1位 石川県	76.0
2位 北海道	75.1
3位 沖縄県	74.7
4位 富山県	74.3
5位 香川県	73.4
6位 鹿児島県	73.1
7位 高知県	72.4
8位 長崎県	71.6
9位 広島県	71.5
10位 福岡県	71.4

(単位：%)

2016年度 順位	
全体平均	48.1
1位 沖縄県	68.7
2位 石川県	65.0
3位 京都府	64.9
4位 北海道	64.0
5位 高知県	63.8
6位 長崎県	59.3
7位 鹿児島県	59.2
8位 広島県	58.0
9位 愛媛県	57.3
10位 山形県	56.0

2015年度 順位	
全体平均	48.8
1位 沖縄県	69.0
2位 高知県	63.7
3位 北海道	62.7
4位 石川県	61.4
5位 熊本県	60.8
6位 青森県	60.7
7位 京都府	60.2
8位 富山県	60.0
9位 鹿児島県	59.9
10位 新潟県	59.3

(単位：%)

2016年度 順位	
全体平均	42.4
1位 大分県	65.6
2位 沖縄県	60.3
3位 岐阜県	51.9
4位 山形県	51.5
5位 北海道	50.5
6位 石川県	50.0
7位 千葉県	49.5
7位 和歌山県	49.5
9位 愛媛県	49.2
10位 栃木県	49.0

2015年度 順位	
全体平均	42.7
1位 大分県	57.4
2位 沖縄県	56.0
3位 熊本県	53.1
4位 和歌山県	52.6
5位 千葉県	51.9
6位 愛媛県	51.8
7位 北海道	51.1
8位 岐阜県	49.3
9位 山形県	48.7
10位 三重県	48.3

(6) 都道府県別魅力

奈良県は、おいしい食べ物、特産品、及び、宿泊施設いずれもベスト10に入っていない。

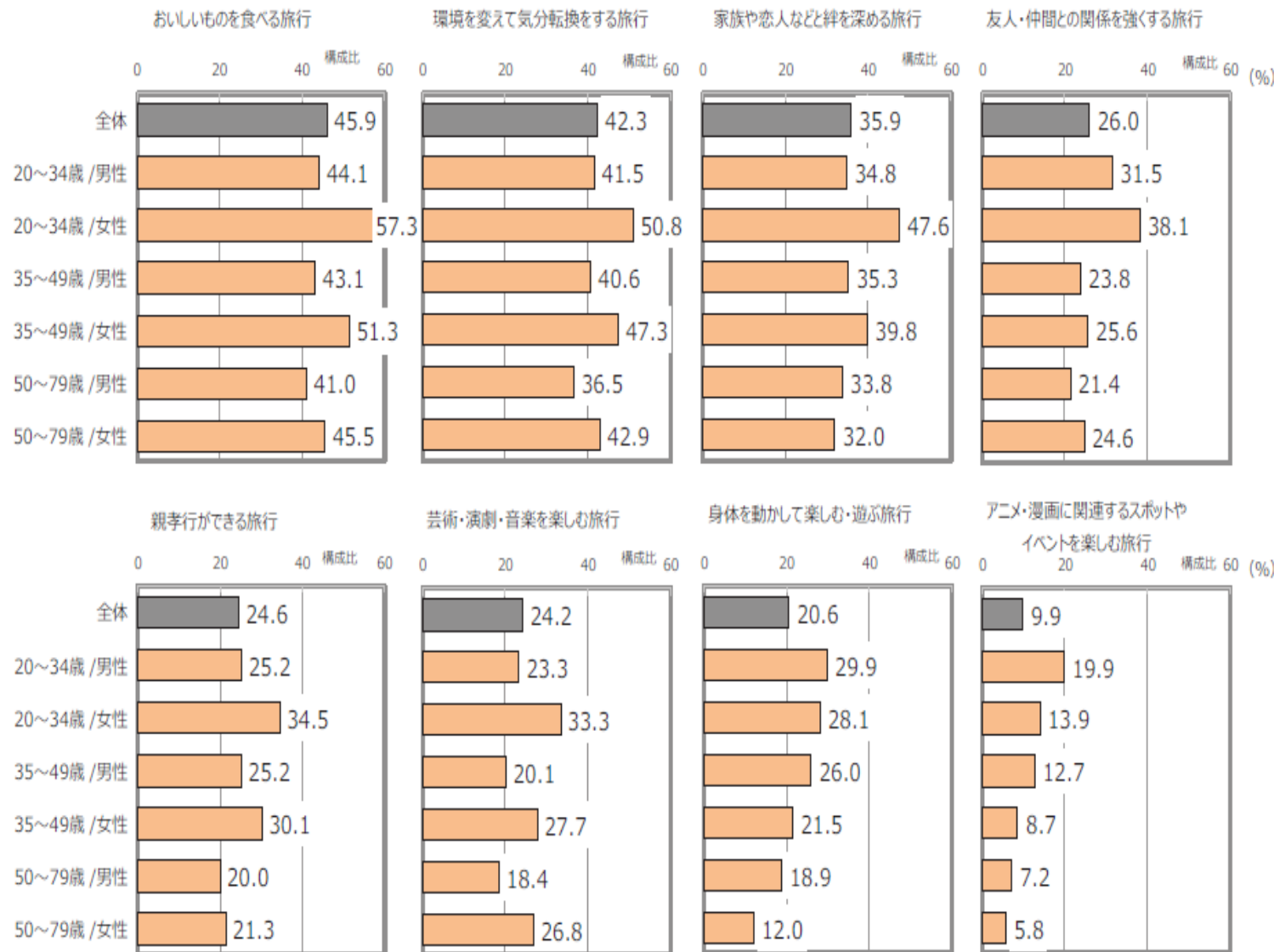
旅行者の心に残るような、食べ物、及び、特産品を如何に開発していくかが課題と言える。

6. 旅行アンケート（リクルートライフスタイル；じゃらん宿泊旅行調査2017）

◇性・年代別 今後1年以内に行ってみたい旅行（それぞれ単一回答）

＜ベース：1次調査集計対象2万人＞

※各旅行について「すぐに行きたい」「1年以内に行きたい」と回答した人の割合 ※全30種類の旅行のうち、属性別の差が大きい8項目を抽出



（7）今後1年以内に行ってみたい旅行

最も多いのが「おいしいものを食べる旅行」45.9%、次に多いのが「環境を変えて気分転換をする旅行」42.3%である。これは年齢別でみてもほぼ変わらない。

黒滝村、下市町、天川村いずれも環境を変えることができる自然環境を持っており、これをどうやって訴えていくかが課題と言える。